

2番 畠山和英です。令和2年第3回岩泉町議会定例会にあたり、今後の町政運営課題の一端について一般質問を行います。

初めに、新型コロナウイルス感染症に関する今後の取り組みについて伺います。

新型コロナウイルスの感染拡大が止まる様相がありません。社会経済への影響が大きく懸念されることから一日も早い終息を祈るものであります。

令和元年末に中国・武漢を発生源とされる新型コロナウイルス感染症が世界の隅々まで広がり、我が日本列島も感染者や感染地域が拡大しています。

国内でのウイルス感染拡大は、緊急事態宣言に伴う外出の自粛や休業など徹底した制約の結果により、感染状況は改善し一端収束の兆しを見せたものの、社会経済活動全般に大きな影響をもたらしました。

緊急事態宣言解除後の6月以降、新型コロナウイルスの流行が拡大し、この「第2波」は既にピークに達していると思われる見られていますが、再拡大の警戒が必要だと指摘されてい

ます。

国内で唯一感染者がゼロだった本県でも初確認されてから一ヶ月余り、県内各地で感染が続き拡大防止に注意警戒を強めています。

新型コロナウイルスは、私たちの暮らしや社会経済活動を一変させました。新しい生活様式をもたらし、ウィズコロナを工夫しながら乗り越えていかなければならない時代になっています。また、企業、事業者などの売上の減少や休業など地域経済は深刻な影響を受けています。

町当局におかれましては、令和2年2月「町新型コロナウイルス感染症対策本部」を設置。以来、感染拡大の防止や雇用の維持、地域経済の立て直しなどに取り組んできています。

町では、今、緊急経済対策を講じているところですが、地域経済の現状をどのように捉えているのか。特に、観光業、製造業、飲食業について、具体的にお示しください。

私は、先の6月定例会一般質問で町の緊急経済対策を早急に講ずるよう取り上げたところですが、町では第1弾か

ら第3弾までの補正予算で、事業者の経営継続などの支援をしています。一方、国では、新型コロナ緊急経済対策として大幅な第1次、第2次補正予算を組んで経済対策を講じているところです。

これら施策の事業執行については、速やかに町民や事業者に行き届かなければ十分ではありません。町長は、これまでの国や町の緊急経済対策の効果をどのように捉えているか伺います。

厳しい地域経済の中にあって、深刻な打撃を受けている企業、事業者があれば、倒産や廃業を抑え、失業者を出さない施策を進めていかなければなりません。これらの実施を通じて、足らざるところがあれば地方創生臨時交付金のほか基金の活用を含め、積極果敢に第4弾、第5弾の追加経済対策を講ずるべきと考えます。

町長の今後の取り組みについて見解を伺います。

次に、安心、安全な道路の整備促進について伺います。

1点目は、一般県道大川松草線危険箇所の整備促進につ

いてであります。

去る、8月14日に一般県道大川松草線起点の国道340号に接する大渡地内において、法面岩盤の崩落事故があり通行止めとなりました。応急復旧工事は、落盤が心配される岩石を取り除き、とりあえず通行を確保したところです。

この場所は、狭隘な道路で岩盤がそそり立ち、小さな沢から水が流れ、崩落の現状をみるに今後も落下する危険性があります。崩落時、応急復旧工事中は数日間通行止めになり、さらに大きな崩落事故が起きますと大川地域はたちまち「陸の孤島」化し、日常生活や経済活動に多大な影響を及ぼすことが心配され、地域住民は不安を抱いています。

この道路入口箇所の部分的な改良整備促進等危険箇所を最優先して早急な工事を図るべきであります。県に対する要望など町長の所見を伺います。

令和4年4月には釜津田中学校が岩泉中学校へ統合される予定と伺っており、スクールバスの運行に支障が生じないように早急な改良整備が必要です。未改良区間が多い本路線の道路改良が完了するまでは、沿線上の各所に待避所

整備を要望しています。この整備促進について町長の所見を伺います。

2点目は、国道340号押角・落合間の整備促進についてであります。

現在整備中の国道340号押角峠工区延長3.7キロメートルは、令和2年度中の竣工が予定されています。この完成した押角トンネルを出ますと狭隘かつ急カーブの連続で安全な通行の確保が心配されます。

国道340号は、八戸市から陸前高田市までの250.5キロメートル、最後の未改良区間である押角トンネルの前後宮古市茂市側の約4キロメートル、岩泉町落合側約9キロメートルを改良し、道路としての機能を双方向性とするためにも早期改良整備が求められる大変重要な路線です。災害に備える防災道路として、地域連携道路、観光振興道路として整備を進めなければならない必要性を強く感じます。

この未改良区間の整備は、県によりますと宮古市側未改良区間のうち1.7キロメートルが「和井内～押角工区」として令和2年度新規事業化され、7年間の事業期間で整備す

ると伺っています。そうしますと宮古市側だけで、あと 2.3 キロメートル未整備区間がありますので 15 年以上もの歳月がかかることとなります。

岩泉町側の未整備区間についても宮古市側と並行して令和 3 年度から新規事業化が図られ整備されるよう、町として、道路整備促進期成同盟会として強力に要望活動を行うべきであります。町長の所見を伺います。

また、去年は台風 19 号の影響で、国道 340 号宮古岩泉間整備促進住民総決起大会は開催中止となりました。本年度も住民総決起大会を予定しているところですが、コロナ渦中であります。開催の可否、開催方法など、どうする考えか伺います。

以上で、本席からの質問を終わります。

## 2番 畠山 和英 議員の御質問にお答えします。

初めに、地域経済の現状についてであります。先ず、観光業は、龍泉洞の入洞者数における単月の前年比で見ますと、6月は約7割減、8月は約6割減という状況であります。

次に、製造業は、岩手アライ株式会社の例年の受注量と比較しますと、5月は約7割減まで落ち込み、9月は約1割減と徐々にであります。回復傾向にあると伺っております。

最後に、飲食業は、7月は例年の9割程度まで客足が戻ったものの、県内で初の感染者が確認された7月下旬には客足が鈍りましたが、最近は徐々に戻りつつあると伺っているところであります。地域経済全般につきましては、まだ厳しい状況が続くのではないかと危惧しているところであります。

次に、これまでの緊急経済対策の効果ではありますが、中小事業者等への支援事業を実施したことによって、一定程度の効果はあったものと考えております。

また、プレミアム商品券につきましては、すべて完売となったことから、今後、消費購買活動が促進され、地域経済への波及効果が表れてくるものと考えております。

このほか、コロナゼロ宿泊助成事業につきましては、事業の開始を契機に客足が戻りつつあり、7割から8割程度まで回復したとお聞きしており、また、同時期に始まった国や県の制度との相乗効果もあったことから、本事業の期間延長などを検討してまいりたいと考えております。

今後の取組についてではありますが、新型コロナ

ウイルス感染症への対策が中長期に及ぶものと考えられますので、引き続き、関係団体と連携し、今後の状況を注視しながら、必要に応じた経済対策を検討してまいりたいと考えております。

次に、安心、安全な道路の整備促進についてお答えします。

一般県道大川松草線の危険箇所の整備促進については、8月19日に大川地区道路整備促進期成同盟会において、岩泉土木センターに対し、当該箇所の早期復旧について、緊急要望を行ったところであります。

今後においても、岩泉土木センターと情報を共有しながら、当該箇所の早期復旧を目指し、再び同じような事故が発生しない道路整備について、なお一層要望してまいります。

また、去る8月6日には、岩手県県土整備部

長に対する道路整備要望を行い、本路線の改良整備の重要性を強く訴えたところではありますが、さらに改良整備が促進されるよう、町民の皆様と一丸となり要望活動に取り組んでまいりたいと考えております。

次に、二点目の国道340号押角、落合間の整備促進についてであります。押角トンネルを含む、押角峠工区につきましては、本年度中の完成に向けて順調に工事が進んでいると伺っており、また、宮古市側の未改良区間約4キロメートルのうち1.7キロメートルは本年度事業化となり、令和8年度には完成する計画であると伺っております。

しかしながら、岩泉町側の事業につきましては、事業スケジュールの見通しがまだ示されていないことから、早急な事業化に向け、これまで以上に町民の皆様の御支援を賜りながら強力

に要望活動を実施してまいりたいと考えております。

また、「国道340号宮古岩泉間整備促進住民総決起大会」については、宮古市との調整の結果、10月に宮古市を会場に、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、規模を縮小して実施する予定としております。

以上で答弁を終わります。